

# 慢性期障害者に対する集中リハ入院

## —「障害ドック」の試み—

き さ とし ろう お の けい じ  
 木 佐 俊 郎 小 野 恵 司  
 いし だ とおる さか い やす お  
 石 田 徹 酒 井 康 生

キーワード：脳卒中後遺症，パーキンソン病，集中リハビリテーション入院，  
 障害ドック，慢性期リハビリテーション

### 要 旨

診療報酬改定に伴う厳しいリハビリテーション医療環境下，脳卒中後遺症やパーキンソン病などを中心に半年間で32例の集中リハビリテーション入院（“障害ドック”）を行った。97%のケースで入院時に立てた目標を達成した。

ここで挙げたシステムは，慢性期障害者の本来ニーズに応える内容と思われ，今後，かかりつけ医，介護支援専門員（ケアマネージャー），リハビリテーション専門病院が連携して，慢性期障害者の機能維持・向上に寄与できる可能性がある。

障害者に対する介護保険による心身機能・ADL維持システムは，必ずしも十分機能しているとはいえない。一方，H18年4月からの診療報酬改定，とくにリハビリテーション（以下リハと略す）療法の算定日数制限は，障害者の機能・ADL・QOLの維持・向上に打撃を与えている。

このような中，当院はH18年6月から医療保険による“リハ相談外来”と期間限定の集中リハ入院（“障害ドック”）を開始した。相談目的を達するためには，いわば船のドックのように，内在する問題点が無いかどうか点検する必要がある。こ

の点から，“障害ドック”という名称を仮称した。

今回，この新しいシステムの成果と反省点を得るために，現状とこれまでの結果を報告する。

### 対 象 と 方 法

原則として慢性期にある障害者を対象にこのシステムを開始した。

方法として，機能・ADL向上の希望内容を図1に示すような流れで，ケアマネージャー（以下ケアマネと略称）・かかりつけ医の紹介で受付け，リハ専門医が外来診察評価（“リハ相談外来”）し，適応があれば入院として希望実現に努めた。入院適応が無い場合でも相応の助言・指導を行った。

Toshiro KISA et al.

出雲市民リハビリテーション病院

連絡先：〒693-0033 出雲市知井宮町238